

令和6年 第11回

教育委員会定例会会議録

令和6年11月13日

中央区教育委員会

令和6年第11回
教育委員会定例会会議録

開会日時 令和6年11月13日(水) 午後2時00分

場 所 中央区役所 8階 大会議室

出席委員	中央区教育委員会	教育長	平林治樹
		委 員	坂本順子
		委 員	小川将
		委 員	伊東佳子
		委 員	渥美哲夫

説明のために出席した事務局職員

次 長	北澤千恵子
参 事	俣野修一
学務課長	鷲頭隆介
学校施設課長	田中恒祐
指導室長	小林傑
統括指導主事	平野収
統括指導主事	深滝恵
幼児教育担当専門幹	中島由美子
図書文化財課長	植木良則
教育センター所長	村上隆史
副 参 事	増山一成

説明のために出席した区長部局職員

文化・生涯学習課長	森下康浩
スポーツ課長	石川和男

書 記 中央区教育委員会事務局

庶務係長	一瀬知之
庶務係員	北川智基

開 議 午後2時00分平林教育長開会宣言

会議規則第30条による署名委員

教育長	平林治樹
委 員	伊東佳子

日程第 1 報告事項
 各課事業報告について

教 育 長 それでは、ただいまから令和6年第11回教育委員会定例会を開会いたします。

 初めに、本日の会議録の署名委員を指名いたします。本日は伊東委員にお願いいたします。

伊東委員 承知しました。

教 育 長 それでは、本日の日程に入ります。

 日程第1、報告事項のうち、（1）について報告願います。

参 事 「令和6年特別区人事委員会勧告等概要」について、資料1により報告。

教 育 長 それでは、ただいまの報告につきまして、ご質問等ございましたら、お伺いいたします。

小川委員 当区においての勤務環境のところなんですが、①の職員のやりがいや意欲を高める環境づくりというのがあるんですけども、ここは多分区ごとにかなり、例えば1人当たりの床面積の違いとか、いろんな要素があると思いますので、この辺りについては当区の概況をしっかりと踏まえて、ある意味、それで魅力ある職場づくりということになってくると思いますので、ハード面とソフト面、こういったところをしっかりと反映するようにしていただければいいかなと思います。この辺りの環境づくりというのが、現場にも反映されると思いますので、非常に大事なポイントだと思います。この勧告を受けて、具体的な施策に反映していただければと思いますので、これは意見とお願いでございます。よろしくお願いします。

教 育 長 ありがとうございます。ほかにご質問等ございますでしょうか。

 （「なし」の声あり）

教 育 長 よろしいでしょうか。

 それでは、続きまして、報告事項の（2）、（3）、（4）について、一括で報告願います。

学務課長 「区立小学校特認校制度の申込み状況について」について、資料2により報告。

 「区立中学校自由選択制の申込み状況について」について、資料3により報告。

 「区立幼稚園児の応募状況について」について、資料4により報告。

教 育 長 それでは、ただいまの報告につきまして、ご質問等ございましたら、お伺いいたします。

伊東委員 区立幼稚園の受入れについて、ちょっとお伺いしたいんですけども、泰明幼稚園なんですけれども、3歳児で、もう一人募集があればということなんですけども、4、5歳児で学級を編成するということなんですけれども、4歳児も在籍の方ではなくて、地域の方ということを見ると、3、4歳児で1学級とい

うことは、お考えとしてはどうなのでしょう。

学務課長 まず、中央区立幼稚園におきましては学級編成基準がございまして、その基準におきまして、各歳児におきまして6人以上でないと学級を開設できないという規定がございます。その観点で申しますと、今こちらにございます3歳児、4歳児、5歳児、それぞれ令和7年度の数ということになってまいります。4歳児の部分につきましては現在1名ということで、ここから6名以上に園児の数が増えるというところまで増加をするという部分については、なかなか見込まれる部分ではないという声もございまして、現状では4歳児についての学級開設というのは見送る方向で考えているところでございます。以上でございます。

伊東委員 ありがとうございます。そうすると4歳児は4、5歳児クラスとして受け入れるけれども、3歳児がこれで6人になった場合という、3、4歳児クラスで受け入れるのではなく、やっぱり4、5歳児クラスに入るという考え方に なりますか。

学務課長 先ほど申し上げました各歳児ごとに6人以上でないと学級が開設できないというのは、異なる2つの学年を1つの学級として、1つの扱いで対応する場合におきましても同様の基準が適用されるものでございます。したがって、4歳児で、例えば5歳児と合わせて学級を開設しようという場合は、4歳児も5歳児も6人以上いないと学級が開設できないということになります。

また、この異なる2学年の学級開設につきましては数の上限がございまして、その数の上限を15人と定めているところでございます。したがって、4歳児と5歳児それぞれ6人以上ずつ、かつ合わせて15人以下でないと学級として開設ができないということがございます。以上でございます。

伊東委員 ということは、4歳児は難しいので、ほかの園を検討していただくという形ですかね。分かりました。ありがとうございます。

教 育 長 ほかにご質問ございますでしょうか。

坂本委員 傾向として感触的なところを教えていただきたいと思いますが、今の幼稚園のほうの募集人数を上回る応募があつて拡大しましたというのが何園かございました。そうすると、今回、幼稚園の受入れというか、応募人数としては、手応えがあるなというようなご感触なのか、それとも、たまたまここはこうだったという何か原因があるのか、その辺りを教えていただきたいと思います。

学務課長 こちらの今回ご報告いたしました数というのが、現時点で応募いただいた数になっております。ここから、特に今回ですと、幼稚園の預かり保育が午後6時まで延長しますということのご案内を差し上げた上での方向となっております。その意味で申しますと、一部で保育園ですとか、あと認可外の施設とかを併願されている方々ももちろんいる状況でございます。そうした方々が

最終的にどこの施設を選択されるのかという傾向につきましては、何分こうしたご案内を差し上げるのも今年度初めてということもございますので、まだ読み切れてはいないところではございます。

そうはいいながら、一部園で定員を上回る数で応募があったということは、いろいろ地域ごとの違いというのももちろんあるとは思いますが、それはある意味、前向きに私どもとしても捉えてよろしいのではないかなと考えているところでございます。以上でございます。

坂本委員 ありがとうございます。形式的なお話なんですけれども、先ほどご案内がありました受入れ枠と、それから昨対というんですか、昨年対比の形とが、別紙とで分かれておりますけれども、もしお手間でなければ、例えば中学校でいえば、希望校のほうの銀座中学校のところに、括弧何人とか受入れ枠、こちらの予想しておる枠を入れていただけますと、何となく全体が1枚で納まってよろしいかなと思いましたので、ご検討いただければと思います。

学務課長 ただいまのお話についても検討しつつ、こうした形で一旦受入れ可能と見込まれる数を明確に私どものほうで示しますと、やはり保護者の皆さんも、そうした期待値が非常に高くなるというところがございます。先ほど別のところで申し上げましたが、今後、最終的に学校が確定する12月までの間に転入されてきたりする方々の様子も含めながら、最終的なこういった数が固まってくることになりますので、その辺りはそうした考え方も踏まえながら、私どもも検討してまいりたいと存じます。以上でございます。

坂本委員 ありがとうございます。ご一任申し上げます。

教 育 長 ほかにご質問ございますでしょうか。

（「なし」の声あり）

教 育 長 よろしいでしょうか。

それでは、続きまして、報告事項の（５）、（６）について、一括で報告を願います。

文化・生涯学習課長 「令和6年度中央区二十歳のつどいの実施について」について、資料5により報告。

「「第45回中央区子どもフェスティバル」の実施結果について」について、資料6により報告。

教 育 長 それでは、ただいまの報告につきまして、ご質問等ございましたらお伺いたします。

小川委員 アンケートの今日はどこから来ましたかというので、やはり日本橋地域近傍の方が、結果的には、近いということでお越しになられている数が多いんですけれども、子どもの数からすると、恐らく月島地域のほうが多いであろうというところは予想するんですが、その辺りのバランスが、もう少し月島地域か

からお越しいただけるような施策であるとか、もしくは来ない理由というんですか、そういったところというのは、何かしらアンケート等で把握してご参加いただくような振りをやっていただけると、もっとよろしいんじゃないかなと思うんですが、その点に関して、何か、こういった施策は打ってますというのが、もしあればお聞かせいただければと思います。

文化・生涯学習課長

ただいまご指摘いただいた点でございますが、恥ずかしながら、なかなか詳細をつかんではいないところでございます。

一つ考えられるのは、小さなお子さんの参加が多いものですから、距離的なことが少し支障になっているのかという、そうしたところは推測するところでございますが、今、委員おっしゃるように、何らかの形で、どんな考えなのか、どういう手を打てば来やすくなるのか、そこら辺については、今後、検討、研究をしていきたいと思っております。以上でございます。

小川委員

非常に催物としては楽しいものもありますし、日本橋地域なんかは、歴史性を踏まえて、藍染め等、いろいろやられていると思いますので、区の中のほかの地域の取組など、そういったことに触れて非常に勉強になる機会かなと思いますので、その辺りは各地域なのか、区でやるのかというのはあるんですけども、両立てで参加の機会を増やすというところを、ぜひ企図していただければなと思います。よろしくお願いします。

教 育 長

ありがとうございます。他にご質問等ございますでしょうか。

渥美委員

子どもフェスティバル、毎度見学させていただいておりますけれども、非常ににぎわっていて、すばらしい取組だなと思います。今お話ありました、今日はどこから来ましたかというものに関連して、自転車で来る人が多いと思うんですね。来場するための手段というのは、自転車以外に何か方策を考えているのか。それから、自転車の当番をやっている人たちに聞いたら、自転車は、昨年と比較してそれほど増えた印象はないが、その代わりベビーカーがすごく増えちゃったということを聞いているので、その辺の仕分というんでしょうか、何か策を考えていらっしゃるでしょうか。

文化・生涯学習課長

まず、お越しいただくについては、基本、自転車の方が今多くいらっしゃるんですけれども、あとは基本的に公共交通機関等のご利用の下で来ていただきたいと考えているところでございます。

そして、今、委員ご指摘いただいたベビーカーでございますが、確かに正直申し上げて、私どもも今回増えたなということで、非常に驚いているところもでございます。そうした状況にございますので、また次年度以降の実施に当たっては、参加して、参加しやすかったというような、そういった形で言っただけのような配慮をした上で実施してまいりたいと考えているところでございます。

渥美委員 ありがとうございます。

教 育 長 ほかにご質問等はございますでしょうか。

伊東委員 子どもフェスティバルに関してなんですけれども、とてもにぎわっていて、とてもよかったなと思います。このアンケートのところで、未就園、保育園、幼稚園と一くくりにしてしまうと見えてこない部分があるかなと思います。特に保育園と言った場合には、7か月でも保育園だし、5歳も保育園になってしまいます。未就園と言った場合には、本当に保育園に行く前のゼロ歳さんなのか、幼稚園に行こうと思っている3歳さんなのかも見えなくなってしまうというところがあるので、できましたら、この辺りは、次のアンケートのときには年齢で書いていただくといいかと思います。

 それと先ほどからある交通手段ですね。特に日本橋地域からは本当に行きやすい場所なんですけれども、あそこは中央区の巡回バスも通らないというか、月島からは直接は行けない場所ですし、その日限りでも、できれば中央区の巡回バスの足を少し延ばすとか、何かやっていただくと、お子さんたちも来やすいかと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

文化・生涯学習課長 大変貴重なご意見を賜り、ありがとうございます。年齢等、できるだけアンケートとしてご負担にならない範囲の中で、何らかの形で取り入れられるよう工夫してまいりたいと思います。

 また、交通手段については、何らかの形が取れないか等、研究をしてまいりたいと思います。以上でございます。

伊東委員 よろしく願いします。

教 育 長 ほかにご質問ございますでしょうか。

 （「なし」の声あり）

教 育 長 よろしいでしょうか。

 それでは、続きまして、報告事項の（7）について、報告を願います。

スポーツ課長 「第36回「区民スポーツの日」の実施結果について」について、資料7により報告。

教 育 長 ただいまの報告につきまして、ご質問等ございましたら、お伺いいたします。

渥美委員 スポーツの日、ありがとうございます。ところで、この中で関心があるのは、区立中学校の生徒、また都立晴海総合高校生徒がお手伝いしていただいています。晴海総合高校はお隣なんです、この区立中学校というのは、晴海中だけでしょうか。

スポーツ課長 区内5校の生徒さんに募集をかけまして、お手伝いいただきました。以上です。

渥美委員 何人ぐらいお手伝いとして参加されていますか。

スポーツ課長 今すぐ、数字が出てまいりませんが、把握はしておりますので、後ほどご報

告できればと思いますが、よろしいでしょうか。

渥美委員
教 育 長
坂本委員

はい。ありがとうございます。

ありがとうございました。ほかにご質問等ございますでしょうか。

質問ではございませんけれども、とにかくよい天気恵まれて実施できたということが本当に何よりでした。

その分、脱水とか体調不良が、今年は特に暑かったということもあって心配されましたけれども、おおむね順調に進まれたということで、よかったと思います。ありがとうございました。

教 育 長

ありがとうございました。ほかにご質問等ございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

教 育 長

よろしいでしょうか。

それでは、報告事項の(8)について、各所管課長から報告をお願いします。

学務課長
指導室長
教 育 長
伊東委員

「意見・要望」の1件目、2件目、3件目について、資料8により報告。

「意見・要望」の4件目、5件目について、資料8により報告。

「意見・要望」の6件目について、資料8により報告。

それでは、ただいまの各報告につきまして、ご質問等ございましたら、お伺いいたします。

泰明小学校からのバスの運用についてというところで、小学生の児童がバスで帰るときに、態度が悪いとか、そういうことも含め、スクールバスがいいんじゃないかという話が今までも何度か出ていたかと思いますが、昨今大分状況が変わってきて、かなり混雑したバスに乗らなければいけない。例えば1年生、2年生であっても、バスに座れず、立った状態での乗車がどうしても必要となってしまうと、特認校ではありますけれども、やはり安全に通学できるというところが難しくなっているかなと思います。

また、先ほど特認校の申込みのところも見させていただきましたけれども、泰明小学校が少し人数が少ないと。この一因には、やはり通学手段が都バスもしくは日比谷線ですかね、いずれも非常に混雑をしているというところで忌避されている方もいらっしゃるのかなと、これは勝手な想像ですがけれども考えます。学校の前までバスをつけるという必要はないかと思います。都バスの位置から出すでも構わないのではないかと思いますので、少し安全に晴海地区、もしくはそれ以外の地区からも学校に通えるような手段を講じていただければなど、これは要望でございます。

教 育 長
小川委員

ありがとうございました。ほかにご質問等ございますでしょうか。

261番のところなんですけれども、日本語の対応がなかなか不十分な生徒がいらっしゃるということをおっしゃっているんだと思うんですが、これは数的に、本区においてはどれぐらいいらっしゃる、ここに他区で多いとこ

ろは日本語学級を複数設置しているというのを書いているんですけども、割合的にどれぐらいの数が来たら、設置していて、それと比べてどうなのかという、その辺りの数字を教えてくださいませんか。

教育センター所長

語学指導員の要望について、私からご説明をいたします。

実際に外国籍であったり、日本人であっても外国にずっといらっしゃった方がおりまして、毎年、日本語指導が必要なお子さんが増えていることは間違いありません。子どもの数でいきますと、令和4年度が40名、令和5年度が82名で、令和6年度は8月末現在ですが、既に63名ということで、語学指導員の必要なお子さんの数が増えている状況でありまして、そのお子さんに関しては、一応、今のところ全部で40時間、最大プラス20時間の60時間分の語学指導員の配置を行っている、そういう現状はございます。以上です。

学務課長

先ほど委員からもご質問にございました、外国人のお子さんが、また日本語の指導とかが必要なお子さんが何人もいた場合に、こういった学級設置をされるかという学級設置の観点で申しますと、こうしたお子さん、外国籍の方が多いということもございまして、特段に人数制限、人数による学級設置の規定ということが求められているものではございません。

私どもも聞き及んでいる限りでございますが、一部の区の一部の学校では、むしろ日本語で授業を受ける方のほうが少ないところもあったりするような状況というのは耳にしているところではございます。その辺りというのは、特に各区におけます、実際のそうした方々がお集まりになる数ですとか、あと割合といった部分も含めて、総合的に学級設置について勘案しているものと認識しているところでございます。私からは以上でございます。

小川委員

恐らく人口が、まださらに増える見込みがあるというところで考えると、さらに増えていく可能性が非常に高いところですので、個別の指導だけで足り得るのかどうかといったところも、ここは真剣に考えなきゃいけないんじゃないかなという、数字を聞いて今思いました。

それとばらつきですよね。各学校にどれぐらいいるのか、まとまっているのか、そういったところも踏まえて考えていくべきところかなと。これで対応できて、教育受けている生徒さんたちが、しっかり日本語での教育を受けられているという状況が把握できているのであればいいのかなと思うんですけども、数自体が想像しているよりちょっと多いなという感じがしましたので、その辺りの見解なんか教えていただければと思います。

指導室長

先ほど学務課長から日本語学級の話がありましたけれども、今、東京都全体で、外国籍に限らず日本国籍のお子さんで、日本語が修得できていないお子さんの課題が出てきております。

補足をいたしますが、先ほど教育センター所長が区で行っている日本語の

指導員の派遣について説明しましたが、日本語学級を設置した場合は、東京都が正規教員を配置することになります。それとは別に、日本語が習得できていない児童・生徒数が多い学校は、東京都に申請すると日本語指導の加配教員がつく制度もございます。

現在、指導室と教育センター、学務課と連携して、その動向を注視しておりますが、日本語指導の加配教員がつく基準に安定的に達するまでには至っておりません。こうした状況で東京都に申請してしまいますと、年度によって教員がついたり剥がれたりすることになってしまいますので、現在、状況を見極めていくところです。

小川委員 分かりました。人口が増えていくところについては、その辺りをしっかり見極めて、今後、安定的になっていくということは、子どもの数もそんなに増えないということもあつたりしますので、人口動態をしっかりと把握した上で、適切な対応をお願いしたいと思います。ありがとうございます。

教 育 長 ほかにご質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これで本日の日程は終了いたしますけれども、委員の皆様からご意見等ございましたら、お伺いいたします。

渥美委員 それでは、意見等ではないですけれども、先月、仙台に、30日、31日と視察に参加することができまして、いろいろありがとうございました。非常に有意義な勉強ができたと思います。

そのところで、どんな状況だったのかということを考えると、まずは仙台、これは仙台市立の高砂中学校、こちらで防災教育というのが、やはりあちらはメインになっていますから、そこを学習させていただいたというところで、印象として残っているのは、防災教育、非常に熱心におやりになっているところであります。例えば地域との顔の見える関係をつくっていくんだという形で、非常に熱心に活動に取り組まれていると思うんですけれども、そこについて考えると、あちらは私の考えだと、平面でおうちが並んでいるという地域性というのもあると思うんですね。

それに対して、我が中央区、むしろ高層住宅がたくさんあります。前に、あれは去年ですか、晴海中の防災訓練、ちょっと見せていただきましたけれども、あのときは高層マンションのところに行って、中身はどんなことやったのか、ちょっと私、分からないんですけれども、そういう訓練をされて、来年度はまた中央区内で広げていくようなんですけれども、この辺については、今後、我々として、どういうふうに取り組んでいくのかなという、何かお考えがあれば、それを伺いたいと思っております。

それと、もう一つ、翌日、名取市の図書館を見学させていただきまして、学校図書館支援センターの取組を、大分前から先進的に取り組まれていること

で、素晴らしい活動をされているなど感じたところですが、ただ、あらは、まず名取市図書館をメインにして、そこから学校に支援を広めていくという形ですね。

私ども中央区の場合には、教育センター、こちらに拠点を置いてというか、そこから学校にある図書館並びに地域の図書館にも支援を広げていくという、方向がちょっと違うような感じなんですけれども、やることは一緒なんですよ。この辺についても、どんなふうに取り組まれるのかなというところを伺ってみたいと思うんですけれども、いかがでしょうか。

平野統括指導主事

仙台の視察につきましては、子どもたちの防災に対する認識は非常に高いと捉えております。

視察した高砂中学校の生徒におかれましても、東日本大震災を被災したのは幼児期であるということ、また、震災の記憶は少しずつ風化していつてしまうのではないかというお話が校長先生からもありました。しかし、そのような中、やはり防災教育を継続していくこと、これが一番大切だということをご示唆いただきました。

現在本区におきましては、各学校において防災教育を計画的に進めているところでございます。また、自助、共助の観点から、生徒自身が共助の一員として行動力を発揮できるよう、地域と連携した防災訓練を、現在、区内中学校2校で実施しております。

具体的には、先ほどございました住環境というところ、これは訓練をする際、十分配慮しなければいけないところで、晴海中学校においては、高層マンションを訓練の場にしたり、佃中学校においては、佃島小学校も連携しまして、活動の場所を学校というところにして、そういったところで地域住民の方と連携した訓練を行っているところでございます。

現在、地域の住環境を考慮した、地域と学校が連携した防災訓練を広げていくというところで準備を進めているところでございます。

教育センター所長

私は学校図書館支援センターの部分でございますが、名取市の一番大きな特徴としては、公立の図書館と学校図書館の司書を人事異動をしていくというところが大きな違いだったのではないかなと思います。名取市の場合は公立図書館を中心に、学校図書館に、しかも、かなり昔から先見の明で学校司書を配置して、学校図書館が学校の中核なんだという部分でやっていらっしやったのかなと思いました。なので、本区でやろうとしていることとは違う部分はありますが、ねらいとしては同じ部分ではないかなと思っております。

教育センターが核になって、当然ながら学校図書館が、どの学校も開館時間を増やし、子どもたちが利用できる、まず環境を整えることであったり、学校図書館を利用した授業であったり、子どもたちの読書量を増やすだけではな

くて、学校図書館を活用した情報活用能力を高めたりですとか、読解力を高めたりという取組を行うに当たって、教育センターにセンター統括司書を置いて、偏りないように、どの学校でも同じような取組ができるようにする。また、今までなかなか横のつながりという部分が、非常勤の職員がいて、もちろん学校の司書教諭はおりますが、担任と兼任をしたり、なかなか学校図書館に注力する難しい部分がありましたので、そこを学校司書が核になって、管理職もちろん一緒になって、それぞれの学校経営の中に明確に位置づけてやる。それを教育センターがしっかり統括する形で、その中で、当然ながら公立図書館も、あれだけの資源がありますので、公立図書館もうまくそこにリンクさせていかなければいけない。その中心になるのがセンター内に設置する学校図書館支援センターなので、やることは名取市でやっていることと、その目的は変わらないと思います。学校図書館支援センターが中心になって学校図書館と区立図書館も巻き込みながら一緒にやっていくというふうに、今、開設について考えているところでございます。以上です。

渥美委員

ご説明いただきまして、ありがとうございました。

防災というと、やっぱり小学生は別として、中学生にもなると、共助という意味からすると、大変大きな戦力になると思うんです。なので、そこはしっかりと、これは日頃というか、そういう訓練というか、それが必要だろうから、その辺はぜひ進めていっていただきたいなと思います。

それと、図書館についても、学力向上というんですか、読解力向上のためには本を読むべきだろうなど。それには、学校図書館も行けば、そこに先生がいればいいだろうから、そういう仕組みをどんどんつくっていただきたいなと思います。ありがとうございます。

1点、全然話が違うんですけども、中学校に行って、わあと思ったのは、子どもたちがみんな挨拶してくれるんですね、元気よく。これはすごいなと思ひまして、我が学校も当然、学校によって挨拶の温度差があるんですね。なので、仙台の市立中学も全部がこうだとは分からないんですね。1校しか行っていないので。とはいえ、あれだけ明るく元気よくご挨拶をいただけますと、心温まるというか、うれしくなりますよね。そこら辺、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

教 育 長

ありがとうございました。ほかにご意見等ございますでしょうか。

小川委員

ちょっと今の渥美委員の意見で思い出したところもありまして、私なりの意見をとっているんですけども、特に防災のところについては、非常に勉強になるところが仙台視察においてはありまして、特に今、渥美委員もおっしゃいましたけれども、子どもたち、中学生の場合は物を運んでもらったりとか、大人よりも体力ある部分がありまして、そういったところで非常に頑張って

やってくれるというようなお話を伺ったら、まさにそのとおりだなと。これは別に仙台だからというわけじゃなく、日本全国どこでも同じだと思います。

晴海なんかでも取り組んでいらっしゃったのは、町会であったりとかタワーマンション自治会、こういったところとどういうふうに連携していくかといったところがポイントになると聞いておりますので、その辺りを教育委員会だけではなく、防災を所管する部署であったり、もしくは区民もですかね。そういった各課と横串といいますか、各課の垣根なく検討いただいたほうが、よりよい防災対策ができるんじゃないかなと思っております。

それと、学校での防災対策といった、防災訓練とかですかね、いろいろ工夫はされていると思うんですが、いつ起こるか分からないところでいいますと、学校にいる時間ですと、授業中というのは多分想定してやっているんですが、例えば朝礼の時間に起こった場合、どういう対応をしなきゃいけないとか、ケースタディーというのはいろいろあると思いますので、いろんなことを想定して、どういうふうに動かなきゃいけないかといったところは、これは年度ごとに変えていくとか工夫をしないと、それに対応できないというところもあると思いますので、各企業なんかは、いろんな想定、夜間の場合はどうするんだとか、いろいろやられているという事例も聞いておりますので、そういった事例も研究していただいて、学校での対策というのをどうしていくか、学校での避難訓練をどうするのかといったところを、ぜひ練っていければなと思っておりますので、またいろいろと案を教えていただければと思います。以上でございます。

教 育 長 ありがとうございます。ほかにご意見ございますでしょうか。

（「なし」の声あり）

教 育 長 よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして、本日の委員会を閉会といたします。ありがとうございました。

午後2時58分 教 育 長閉会宣言

署名委員